

「すすきみみずく」制作ワークショップ

「すすきみみずく」制作体験記

泉屋咲月

本ワークショップでは、「雑司が谷すすきみみずく保存会」の方々の指導を受けながら、「すすきみみずく」を制作しました。「すすきみみずく」とは、すすきの穂でつくるみみずくの人形です。普段は、威光山法明寺で、職人の方がつくったものを雑司が谷鬼子母神の参詣土産として購入することができます。「雑司ヶ谷すすきみみずく保存会」は、豊島区および雑司が谷地区の活性化を目的として、雑司が谷の郷土玩具として江戸時代より継承されてきた「すすきみみずく」の制作法の継承に取り組んでいます。

ワークショップ会場には、あらかじめ「すすきみみずく」の材料と、つくり方の説明が書かれた冊子が用意されていました。「すすきみみずく」は、みみずく本体のほか「雑司が谷鬼子母神」と書かれた短冊、笹、笹につける蝶で構成されています。

みみずく本体の主な材料は、乾燥したすすきの穂です。用意されたすすきの穂を3つの束に分けるところからはじめます。分けた穂のうちの2束をつかって、胴体と頭に相当する棒状の部分をつくります。穂を分ける時には、頭の部分にきれいな丸みがつくように、すすきの穂の長さをそろえておくのがポイントです。

次に、残りの束を、タコ糸をつかって頭を取り囲むようにつけ、折り曲げて胸と羽根をつくります。その際、なるべく穂が均等に広がるようにつけると、羽根にふっくらとボリュームが出てかわいらしい仕上がりになります。

最後に、みみずくの頭部に耳と目、鼻をつけてみみずく本体の完成です。みみずく本体が完成したら、笹につるすためのつり下げ糸と短冊をつけます。笹につり下げることによって、持ちやすく飾りやすくなります。笹の先に、蝶をつけて完成です。

「すすきみみずく」の由来となった「すすきみみずく物語」は、豊島区に昔から伝わる民話です。「すすきみみずく物語」の中で、貧しさで病気の母の薬を買えなかった娘が、鬼子母神を参詣していたところ、蝶があらわれ、鬼子母神堂のまわりに生い茂るすすきでみみずくをつくって売るよう娘に言います。娘がその通りにしたところ、みみずくは飛ぶように売れ、母娘は救われました。蝶は、娘のことを救いにきた鬼子母神の化身でした。笹の先につけた蝶は、鬼子母神をあらわしています。

ワークショップでは「すすきみみずく」のつくり方だけでなく、「すすきみみずく」や鬼子母神についても教えていただきました。「すすきみみずく」1体だけでなく、小さな「す

すきみみずく」2体を両脇の羽に入れた「親子みみずく」というものもあり、機会があればぜひ挑戦してみたいと思いました。

「すすきみみずく」を制作する作業そのものも楽しいですが、その由来をふまえてつくることで、伝説をなぞる楽しさも味わうことができました。また、歴史のある「すすきみみずく」の由来や制作法を継承していくことの意義を感じました。同時に、この体験を通じて、鬼子母神堂をはじめとし雑司が谷地域への関心が高まりました。「すすきみみずく」づくりによって、子どもから大人まで幅広い世代が楽しく地域のことを学ぶことができると思います。

(いずみや・さつき 立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程)

「すすきみみずく」づくりに参加して

笹川貴吏子

雑司が谷をテーマに行われた今年度の「池袋学」夏季特別講座では、地域内で行われている様々な取り組みを、実際に地域の方々から学ぶことで、雑司が谷について理解を深めることができました。本ワークショップにてご指導いただいた「雑司が谷すすきみみずく保存会」の方々も、地域の伝統工芸である「すすきみみずく」の継承活動を通じて、雑司が谷地区の地域づくりに取り組んでいます。「すすきみみずく」とは、その名のとおりすすきでつくられたみみずくの人形です。ふっくらした体とつぶらな瞳が愛らしく、私は以前から気になっていたもので、今回「すすきみみずく」づくりを体験することができ、とても嬉しかったです。

ワークショップは2時間程度で、アットホームな雰囲気の中で、みみずくの制作を行いました。最初は、すすきのふわふわした触り心地を楽しみながら、すすきを分ける作業に取り組みました。その時はまだ、おしゃべりを楽しむ余裕があったのですが、工程が進むにつれて徐々に集中しはじめ、気が付いたら無言で作業に没頭していました。途中、すすきを折り曲げたり、形を整えたり、片方の手だけで紐をくくったりする作業があったのですが、不器用な私には難しく、うまくできないこともありました。しかし、保存会の方々の丁寧なサポートのおかげで、なんとかワークショップの時間内に「すすきみみずく」を完成させることができました。

製作を終えて周りを見渡すと、他の参加者の作品も完成していました。痩せている子、太っている子、目が離れている子など、会場は個性豊かな「すすきみみずく」たちで賑や